

平成 30 年度学校関係者評価

吉川中学校

1 教育課程について ～授業力の向上「学びたい授業」～

計 画	<p>①主体的・対話的で深い学びを育む授業の研究 ②授業時間数の確保とともに、より豊かな教育の推進のための検討 ③全ての学年に道徳副教材を導入し、年間計画に基づき指導する。評価について検討を進める。 ④学力の向上に努めるため、配置された加配教員（数2、英1）を最大限活用し、数学科と英語科の習熟度別指導の実施率を50%以上とする。 ⑤支援教育、通常の学級に在籍する支援の必要な生徒への支援、通級指導の充実を図る。 ⑥目標に準拠した評価のあり方を研究し、生徒の意欲を高める指導と評価の一体化を進める。</p>
取 組	<p>①「主体的・対話的で深い学びを育む授業の研究」を研究主題とし、「班学習」を取り入れた授業の研究を進めた。1時間の授業の中に、班の話し合い活動を取り入れた授業づくりを研究した。今年度は、初任者による研究授業1回、2年目教員による研究授業1回、10年目の経験者による研究授業2回の実施、さらには、食育との関連に取り組んだ授業1回を行った。 新学習指導要領の趣旨や深い学びを育む授業について、町教育委員会指導主事を招いて、授業研究会と研修会を実施した。 また、今年度も大型モニターが5台追加導入され、ICT機器の活用について町教育委員会の研修を本校で実施していただき参加した。 今年度も、生徒による授業アンケートを各教員が自主的に実施し、授業改善の参考としている。 ②今年度は、地震・台風等による臨時休校が多く、授業時数が例年より減少している。そのため、授業時数確保のため、3年生は7時間授業を11月～1月にかけて、1週間程度ずつ実施したが、2学期末時点で授業実施時間数は、年間標準時数の1年生が75.3(昨年81.5)％、2年生が75.6(昨年81.4)％、3年生が75.8(昨年81.2)％と、昨年度より大きく減少している。 ③計画通りに従来からの道徳資料を活用して道徳の授業を行うとともに、生徒の生活経験や興味・関心を考慮した自作資料も新たに作成するなど、指導の充実に努めた。また、校内研究授業を6月14日に1年2学級が実施し、府の資料を活用した研究授業を行った。11月1日には、全学級が、一斉に保護者に道徳の授業を公開した。この公開授業日には、府教育委員会の指導主事の訪問を受け、今後の取り組みについて指導を受けた。12月には、和泉市立郷荘中学校松原弘首席を招いて「道徳の授業づくりと評価」について全体研修会を行った。 ④数学と英語では、加配教員（3名）を活用して、生徒の実態に応じて習熟度別分割指導やTT授業（2人体制での授業）を行った。数学は全学年で取り組み6割程度、英語は1、2年生で5割程度実施できている。 ⑤職員会議にて支援学級在籍の生徒についての入学後や各行事前などに配慮事項について情報を共有した。また、来年度入学・支援学級入級予定の児童の様子については、事前に校内にて情報共有を行い、入学後の学校生活について、合理的配慮が必要な児童については保護者も交えて協議を進めている。 さらには、全教員が3小学校へ授業参観にいき、児童の様子を把握したり、11月には、体験入学を実施したり、入学してくる児童について小学校と情報交換を行った。 今年度で2回目となるが、中学校の支援学級在籍保護者の会の研修会（講師：作業療法士中西亜弥先生）に、校区内の小学校保護者の参加も呼びかけ、小中学校の連携にも努めた。 ⑥道徳の評価（文章表記）を来年度より実施する。そのため、町道徳教育研究会に道徳教育推進教師が参加し今年度より実施している小学校の評価について検証するとともに、校内でも講師を招聘して研修を行った。</p>
評	<p>○生徒の評価 ※（H28年度、H29年度、H30年度）の肯定的評価の割合 H30年度学校教育自己診断の授業に関する項目の結果によると「好きな授業がある」（88.2% 88.6%）91.8%「授業をわかりやすくしようとしている」（89.5% 95.5% 97.3%）「少人数授業は分かりやすい」（90.1% 93.4% 92.2%）「朝の読書は落ち着いて読書のできる時間」（84.5% 90.2% 95.1%）であり、概ね良好な結果である。</p> <p>○保護者の評価 「支援教育の充実に努めている」（83.7% 85.4% 88.4%）「少人数授業、きめ細やかな指導、分かりやす</p>

<p>価</p>	<p>い授業の工夫・研究」(83.1% 81.9% 89.7%)「放課後まなび舎教室・家庭学習計画表・補習などを通じて自学自習力の向上に努めている」(80.7% 86.0% 84.9%)「読書活動に力を入れている」(82.8% 84.1% 89.6%)であった。概ね良好な結果である。</p> <p>○総括的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝の読書の時間は引き続き取り組み、家庭での読書も含め、啓発を行っていく必要がある。また、学校図書館を活用した授業(例：調べ学習など)の実施も読書推進には必要である。 ・校内研究会は、主体的・対話的で深い学びを育む授業として、班学習をその具体的手法として提示し授業に取り入れ研究を進めていく。また、外部の研修会に参加し、教科指導力向上などを図っている。今後も継続して校内での研修の活性化を進めていく必要がある。 ・支援教育に対する考え方を整理し、校内体制の整備を進めるため、外部講師を招聘し校内全体研修会を実施した。継続して研修を行う必要がある。 												
<p>学 校 協 議 会 委 員 評 価</p>	<p>・右のグラフのとおり、この5年間の先生方の授業改善「授業をわかりやすくしようとしている」の動きが、生徒にしっかり伝わっていることは、大いに評価できる。これだけ5年間で肯定的評価が増加することは、統計的に考えて目を見張る成果である。学校全体が、「授業をわかりやすくしようとしている」ということを常に生徒に発信するとともに、その実践に力を注いでいるからに違いないと思われる。</p> <div data-bbox="751 633 1428 1037" data-label="Figure"> <p style="text-align: center;">先生は授業をわかりやすくしようとしている 生徒 肯定的評価 (%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>肯定的評価 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成30年度</td> <td>97.3</td> </tr> <tr> <td>平成29年度</td> <td>95.5</td> </tr> <tr> <td>平成28年度</td> <td>89.5</td> </tr> <tr> <td>平成27年度</td> <td>79.5</td> </tr> <tr> <td>平成26年度</td> <td>68.5</td> </tr> </tbody> </table> </div> <p>・自然災害等で今年度は6日間も臨時休業になった。また、インフルエンザでの学級閉鎖期間は、土曜、日曜を挟まなければ、4日間と決められている。</p> <p>地球温暖化により増々気候変動が激しくなると予想される。自然災害等を予測した授業時間数の確保も考えた年度当初の教育課程の編成が必要になってきている。</p> <p>・加配教員による習熟度別分割指導やT T授業が生徒の学力の底上げに繋がっているので、府教委に頼るだけでなく町独自の取り組みとして町教委で教師退職者を雇用して一層細やかな指導に繋げて頂きたい。また、授業時間の確保により一層の取り組みをして頂きたい。</p> <p>・上記取り組みで、「主体的・対話的で深い学びを育む授業の研究」を研究主題とし、「班学習」を取り入れた授業の研究を進めた。1時間の授業の中に、班の話し合い活動を取り入れた授業づくりを研究した。」とあるが、その研究成果を少しでも具体的に、HPなどを通じて、発信できないものかと思う。</p>	年度	肯定的評価 (%)	平成30年度	97.3	平成29年度	95.5	平成28年度	89.5	平成27年度	79.5	平成26年度	68.5
年度	肯定的評価 (%)												
平成30年度	97.3												
平成29年度	95.5												
平成28年度	89.5												
平成27年度	79.5												
平成26年度	68.5												

2 生徒指導について ～寄り添う指導をとおして集団づくり「行きたい学校」～

計
画
①生徒の生活の原点を見据えた指導を行う。
②いじめを許さない集団づくりをめざす。
③学校での生活環境を整える。
④不登校0、いじめ早期発見、早期解決をめざす。
⑤部活動の指導では、明確な目標を設定し、指導を行う。
⑥生徒会役員と学校協議会や PTA 役員との意見交流会を行い、課題解決に向けて学校総体として取り組む仕組みづくりを行う。
⑦生徒のコミュニケーション力や社会性を高める機会を設ける。

取
組
①毎朝の出欠状況を学年として把握する為に、生徒の出席確認を徹底した。
毎朝、学年でまだ登校していない生徒の把握を行い、登校が出来ていない生徒については、即時の対応を心がけた。欠席が連続した生徒には、家庭との適切な連携を図った。不登校傾向のある生徒については、個別の状況に応じた指導を行い、学年団やこども支援コーディネーター等と協議を行い、指導の方向を確認しながら指導を行った。学校全体としては、毎週1回、各学年の担当者、こども支援コーディネーター、管理職で、それぞれの生徒の状況について、情報を共有する場（学年生指連絡会）を持ち、取り組みの方向性を整理しながら進めてきた。また、必要な場合には、専門職（スクールカウンセラー等）を招聘しケース会議を行った。今年度は、小学校との連携によるケース会議も実施した。会議では現状と指導の方向性を共通確認しながら、関係者の役割を確認して進めた。また、生徒一人ひとりの状況を把握した上で、町の適応指導教室や校内のカウンセリングルーム、さらには外部機関との連携を行った。
②道徳、総合、学活などを通じて体験的取り組みを重視し、自尊感情が高まるよう生徒が主体的に取り組めるよう行事を工夫した。校外学習など行事を実施するときは、生徒より実行委員を募り、生徒のアイデアを取り入れたり、運営を任せたりするなど工夫をした。また、学期ごとに生徒に生活アンケートを実施し、いじめや体罰についても含めて、生徒の状況把握に努めた。
③学期に1回は、学期末に大掃除を実施した。また、PTAの協力を得ながらクリーン作戦（年間2回）の実施や、福祉団体のボランティアの方や教職員による草刈り、地域ボランティアの方による中庭花壇整備、PTA 学級委員による施設点検なども実施した。また、教職員による全施設の安全点検を7月と11月に実施し、整備が必要な箇所については、教育委員会に要望を行った。
④生徒間のトラブルはすぐに学年団として対応したうえで保護者に状況を説明し、解決を図ってきた。不登校状態にある生徒宅へは、担任やこども支援コーディネーターによる家庭訪問を行った。学年を超えた校内の全生徒の様子は、こども支援コーディネーターが把握し、必要に応じて学年・担任への支援を行った。また、教室に入りにくい状況になった生徒が学習したり、相談したりできるカウンセリングルームを活用した。また、不登校生徒に対しては、学校外の適応指導教室との連携を行った。
⑤年度初めには、キャプテン会議を経て各クラブミーティングを行い、活動目標と方針を明確にした。また、クラブ活動の活性化のため、他校と合同チームを作り練習するなど活動の幅を広げた（野球部、サッカー部）。生徒数の減少に伴い、今年度末で、サッカー部と家庭科部が廃部となり、クラブ数が12クラブから10クラブとなる。
⑥今年度も10月に前期生徒会役員と学校協議会委員及びPTA役員との懇談会を持ち、生徒が自分の考えを発表し、そのことをもとに、学校関係者と生徒が意見交換する場をもった。生徒は、大人の人が、一生懸命答えてくれたことにとても満足感を持っていた。
⑦体育大会や合唱発表会を始め、3年生では修学旅行（長崎方面への平和学習と民泊体験）、地域の就学前施設での保育体験学習、2年生では宿泊学習（滋賀方面）、職場体験学習（3日間）、1年生では人権校外学習（国際理解）、福祉体験学習（車椅子バスケット体験）、進路学習、いのちの学習（1276座による講演会）を実施した。また、生徒会による朝のあいさつ運動や学校周辺の清掃や花植え運動なども実施した。

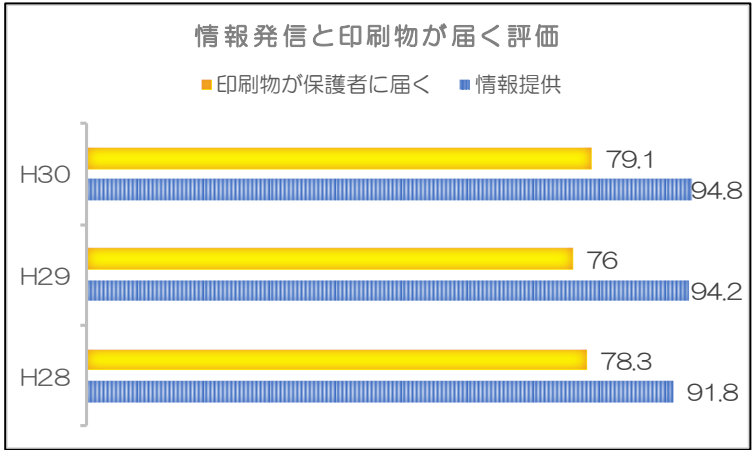
評
○生徒の評価 ※（H28年度、H29年度、**H30年度**）の肯定的評価の割合
「学校へ行くのが楽しい」（86.4%**92.0%****92.9%**）「基本的な生活習慣の確立に力を入れている」（89.4%**95.8%****96.5%**）「あいさつはできていると思う」（86.7%**87.5%****94.5%**）「命の大切さ、社会のルールの大
切さ、人権の大切さについて学んだり考えたりするように指導している」（86.4%**96.5%****97.3%**）「いじ

<p>価</p>	<p>めや悩みや困っていることに対応しようとしている」(82.5% 93.4% 95.7%)「将来の夢や目標を持っている」(71.7% 75.8% 75.0%)「人の役に立てる人間になりたい」(91.8% 95.8% 95.7%)「先生は将来の夢や目標について考える機会をつくっている」(77.0% 85.0% 89.1%)であり、概ね良好な結果である。</p> <p>○保護者の評価</p> <p>「学校へ行くのが楽しいと言っている」(86.7% 86.5% 87.7%)「基本的生活習慣の確立に力を入れている」(89.4% 91.8% 91.3%)「命、社会のルール、人権の大切さについての指導を行っている」(90.0% 87.5% 93.2%)「いじめなど困っていることに耳を傾け対応している」(76.9% 82.5% 87.5%)であり、概ね良好な結果である。</p> <p>○総括的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「行きたい学校」づくりという点では、概ね良好な結果となっている。特に「あいさつはできていると思う」については、今年度7ポイントと大きく上昇した。しかし、「将来の夢や目標を持っている」が、過去3年間7割程度の結果であることは、今後検討していく必要がある。 ・「生きる力」を育成するという点については、各行事や生徒会活動などで、生徒の主体的な活動を数多く体験させていく必要がある。さまざまな場面でそのことを意識して教育活動を創造していかなければならない。 												
<p>学 校 協 議 会 委 員 評 価</p>	<p>・生徒指導については、表面化はしていないが、インターネットを通じての交流（インターネットゲームやSNSへの投稿等）が与える影響は、非常に大きなものがあると思われる。学校だけでは、解決しようがないが、国の施策を待っていたら遅きに失することになるであろう。PTAと連携しながら子ども達の健全育成に積極的にかかわっていく必要がある。</p> <p>・生徒指導の一環として、地域の中の中学校・中学生としてできることを何か見つけられないでしょうか。たとえば、避難訓練を、消防署や近隣住民などにも協力を呼びかけて行い、地域の中での中学生としての役割を自覚できるような場面を設ける。また、書き損じハガキの収集や募金活動など生徒会が取り組んでいることを広く地域にアピールして協力してもらうことで、地域の人たちとコミュニケーションを取ったり、活動に広がりを持たせることが出来るのではないのでしょうか。</p> <p>・不登校・いじめなどには迅速かつ適切な対応が出来ていると思います。</p> <p>この5年間の同一質問に対する回答が、右のグラフのように著しく伸びていることからよくわかります。</p> <p>しかし、まだ、12.5%の保護者は否定的な回答をしていることもしっかり考えていく必要もある。来年はぜひ90%以上を目指してほしい。</p> <div data-bbox="632 1211 1402 1671" data-label="Figure"> <p style="text-align: center;">いじめなど、困っていることに対応 保護者 肯定的回答 (%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>肯定的回答 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H30</td> <td>87.5</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>82.5</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>76.9</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>74.5</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>67.1</td> </tr> </tbody> </table> </div> <p>・体育大会の応援合戦はとても素晴らしいものでした。これからも生徒の自主性を大切にしてください。</p>	年度	肯定的回答 (%)	H30	87.5	H29	82.5	H28	76.9	H27	74.5	H26	67.1
年度	肯定的回答 (%)												
H30	87.5												
H29	82.5												
H28	76.9												
H27	74.5												
H26	67.1												

3 学校の危機管理について - 報告・連絡・相談・点検の徹底

計 画	<p>①コンプライアンスの徹底を図る</p> <p>②学校の事故防止のため、日常の安全点検、報告・連絡・相談を行う。</p> <p>③学校情報の透明化を図り、積極的な発信に努める。</p> <p>④学校文書、公金、諸経費等は、複数の担当で管理・点検を行い、PTA や教育委員会の監査を受ける。</p> <p>⑤生徒・保護者・地域への学校ルールの指導と統一と徹底を図る。</p>
取 組	<p>①教育公務員としてのコンプライアンスについては、定期的に職員会議等で伝達した。特に、生徒の個人情報に関わることへの外部からの問い合わせや、交通規則の遵守等について重点的に行った。金銭の扱いについては、必ず管理職が点検及び最終判断を行った。修学旅行等の取り扱い業者の選定には、複数の業者にプレゼンテーションを依頼し、選定委員の総意で決定した。</p> <p>②校内の安全点検は、年3回教員による全校一斉点検（4、7、12月）と日常の清掃時間での点検を行い、危険箇所については、教育委員会と協議をし、修繕等を行った。今年度は、大阪北部地震があったため、校内の危険箇所点検を直後に臨時で行い、専門化による点検も実施し安全を確認した。学校や地域等で発生した事案については、学校の生徒指導連絡会を中心に全教員で情報共有を行い、必要な場合は町教委や豊能警察と連携し対応を行う。地震及び火災について避難訓練を実施した。今年度は、消防署職員の協力のもと実施した。</p> <p>③「学校だより」「学年だより」「進路通信」「保健だより」「図書だより」「給食だより」などを発行した。特に、学校だよりでは、学校のようにすを保護者に伝えるよう努めた。ホームページが有効に活用されていないので、日常的に情報提供できるツールとしては有効であるので改善が課題である。</p> <p>④学校文書、公金、諸経費については、管理職の許可のもとで取り扱っている。さらに毎年、町教育委員会の監査を受け、改善点等の指導を受けている。また、2月には町監査委員から監査を受けている。さらに、保護者からの徴収金については、3月にPTA 会長による監査を受ける。</p> <p>⑤生徒指導関係のルールについては、校内教員用の生徒指導マニュアルを毎年作成し、教員間で指導の相違が無いように共通確認の文書としている。防犯教室と薬物乱用防止教室を豊能警察の協力で実施した。避難訓練を年間3回実施した。3小学校区の青少年育成協議会に担当が出席し、中学校のようすなどの情報共有を図った。</p>
評 価	<p>○生徒の評価 ※（H28年度、H29年度、H30年度）の肯定的評価の割合 「学校は『学校だより』等通じて情報を発信している」（85.5% 94.6% 97.9%）「『学校だより』等を読んでいる」（55.0% 66.7% 68.1%）「給食は適切に実施されている」（25.7% 43.9% 62.1%）であった。「学校だより」に生徒へのメッセージや学校での出来事など、保護者向けだけでなく生徒を意識した内容にした。また、栄養士を中心に食育推進の授業や工場見学などを継続して進めてきている。</p> <p>○保護者の評価 「学校は教育方針や活動を分かりやすく伝えている」（83.9% 87.5% 88.0%）「学校は情報発信や連絡・情報提供を行っている」（91.8% 94.2% 94.8%）「子どもを通じて情報は保護者に届いている」（78.3% 76.0% 79.1%）「給食は適切に実施されている」（44.1% 43.9% 62.5%）「施設・設備の安全管理を適切に行っている」（78.2% 79.9% 82.1%）「生徒の健康管理に努めようとしている」（87.3% 87.1% 88.8%）であった。学校から保護者への情報発信は大切と考え、学校の取り組みを伝えられるようにと考えているが、施設・設備の老朽化への対応については、教育委員会に調査・修繕を依頼しているが、トイレの老朽化や雨漏りなどについては、改善していないことも多い。緊急メールについては、町の登録システムが変更され、簡単になった。即時性がメリットであるので、任意ではあるが登録を促している。</p> <p>○総括的 生徒会に給食委託業者の見学や意見交換会の実施を行いたいかと打診したところ生徒会は前向きに実施したいとのことで、その意向を受け実施した。給食の残食量は若干であるが減少している。また、給食への肯定的評価も向上してきている。作っている人の思いを知ることも食育の大切なこととしてとらえていく。給食が適切な食育の場となるよう努めていく必要がある。</p> <p>体育大会については、例年通りの一般の方も参観できるように実施した。また、PTAの方への負担</p>

	<p>軽減や危機管理向上のため、学校側の受付の要員を増やしたため、混乱なく実施できた。</p>
学 校 協 議 会 委 員 評 価	<ul style="list-style-type: none"> 校舎、設備の老朽化による危険箇所に対して早期発見、即時対応を今後もよろしく願います。学校だより等配布物は保護者の受け取り確認用のカードなどを作られたらどうですか。自治会に依頼して回覧をすればより地域との連携が図られるのではないかと。 体育大会の参観時に一部の保護者が来賓席近辺でビデオ撮影をされるができれば立ち入り禁止にして欲しい。 小規模校になりより一層きめ細やかな指導と生徒の自主性を重んじた教育を今後も続けて頂きたい。 意見欄に「学校から発信された情報が届いていない状況だと、このアンケートには、はっきりとした回答ができません。」との記入があった。多くの情報をコンピュータやスマートフォンを使って得る時代になってきている。なんでもインターネット上にさらすのは問題がありますが、保護者に「今日、学校だよりを発行しました。」「今日、学年だよりを発行しました。」など緊急メールを使って送信してもよいのではないのでしょうか。 アンケートの保護者集計で、『学校は、「学校だより」を始め、いろいろな「通信」やメール、HP等で、学校情報を発信したり家庭への連絡・情報提供を行っている』(91.8% 94.2% 94.8%)、『学校から発信された情報（印刷物等）は子どもを通じて保護者のもとに届いている』(78.3% 76.0% 79.1%)と数字は少しずつ上昇しているが、この数字を並べてグラフ化してみると、右のようになる。このギャップは何が原因であろうか。



4 本校の将来像と信頼される学校づくりについて - 生徒の意欲と自主的行動力を育てる

計 画	<p>①授業参観と授業公開週間を実施する。</p> <p>②学校教育活動に地域等のボランティアとPTAの支援を積極的に活用して、学力向上や学習の充実、さらには部活動の充実などに取り組む。</p> <p>③学校の小規模化に伴い、他校との交流など、教育の充実のための学校運営のあり方を検討する。</p> <p>④小中一貫教育推進を積極的に行う。</p> <p>⑤学校協議会では、学校が保護者や地域住民等の信頼にこたえ、家庭や地域と連携・協力し、一体となって生徒たちの健やかな成長を図るために、様々な視点の幅広い意見を求めるとともに、学校関係者評価に取り組む。</p>
取 組	<p>①4月21日、5月31日に授業参観、10月30日に公開授業、11月1日に道徳の公開授業、10月30日～16日に生徒作品展を設けた。学年懇談会を各学年1回実施した。(3年生は6月29日に修学旅行報告、2年生は11月1日に職場体験学習の報告、1年生は11月1日に人権校外学習の報告。)参観日の設定に関しては、保護者の参加機会確保のため、土曜日開催を年間1回は行うことを学校で確認した。</p> <p>②学校支援コーディネーターと連携し、定期テスト前に放課後まなび舎を実施した。また、教育委員会が実施している西公民館まなび舎への参加を推奨した。クラブ活動では、野球部、ソフトボール部、卓球部での地域ボランティアの方による外部コーチに実技面の指導をお願いしている。地域との連携では、1年生では働くことの意義を学ぶためのさまざまな職場の方からの聞き取り学習、2年生では実際に働くことを体験する3日間の職場体験学習、3年生では近隣の保育所幼稚園での保育体験学習を実施した。また、地域のボランティアの方と協力して、生徒会が校門前の歩道の花植え活動や、クラブに参加している生徒のボランティアによる学校周りの清掃活動なども行った。さらには、地域教育協議会の「ふれあいのつどい」の事務局を主管し、生徒会が小学校の児童会と連携した取組みをする予定であったが、警報により中止となり今年度は実施できなかった。</p> <p>③生徒数の減少に伴い、希望の少なかったサッカー部と家庭科部を今年度夏に廃部とした。しかし、個人で参加できる剣道、柔道、水泳、ゴルフについては、中学校体育連盟等の大会に出場ができるよう学校として対応した。また、吹奏楽部においては、夏休み中の取組みとして、地域の夏祭りで東能勢中学校文化サークルとの合同演奏を実現した。</p> <p>④小中一貫教育の推進については、町教委主催の小中一貫教育推進会議へ担当者が毎回参加し、12月には合同研修会に参加した。小学校の専科指導の充実のために本校に配置された加配教員が、年間を通じて校区の3小学校で英語の授業を実施した。また、こども支援コーディネーターが小学校教員と連携し、中学校区内のケース会議へ出席し情報交換をするなど生徒指導面での連携を図った。また、中学校給食の試食会を中学校において小学校6年生を対象に行い、同時に中学校での3校交流会を実施した。</p> <p>⑤年間3回の学校協議会を開催し、学校の情報を伝え、ご意見を頂いた。また、10月には学校協議会委員とPTA役員による生徒会役員との懇談会を実施し、直接、生徒会役員へアドバイスをいただくことができた。参加した生徒は、大人の方との意見交流会にとっても満足感を持った。</p>
評 価	<p>○生徒の評価 ※(H28年度、H29年度、H30年度)の肯定的評価の割合 「学校行事はみんなが楽しく、そしてがんばって取り組めるようになっている」(85.2% 95.8% 94.5%)であり、多くの生徒が行事に前向きに取り組んだ様子が伺える。</p> <p>○保護者の評価 「学校は合唱発表会、体育大会などの学校・学年行事等に生徒が前向きに取り組むよう指導している。」(90.1% 92.9% 92.1%)「家庭では子どもとふれあう時間をつくろうとしている」(97.7% 95.6% 96.0%)「家庭では進路について相談することを大切にしている。」(94.1% 95.9% 98.0%)「地域人材の活用に努めている」(89.0% 94.9% 96.8%)であった。</p> <p>本校では、保護者の教育へ関心が高く、生徒との関わりをとても大切にされている様子が結果から伺うことができる。学校行事への関心・期待も高く、学校の教育方針を理解した上での生徒への声かけや励ましが生徒の学校生活に有効に働くことが多い。家庭との連携による教育効果は大きいと感じる。</p>

	<p>○総括的</p> <p>各行事においては、生徒が意欲を持って主体的に取り組むことを大切に進めてきた。行事の内容検討や運営などを生徒の実行委員のアイデアを生かし指導を行った。体育大会の応援団の取り組みは、3年生を中心に進めさせ、上級生が下級生をまとめる経験を積ませることをねらいとした。下級生も上級生に丁寧に教えてもらった経験を体験することが出来、次年度に繋がっていくと感じた。合唱発表会は、各学級指導の一貫として、音楽科が中心となり、生徒の主体的な取り組みとなるよう、曲の決定から練習まで進めている。</p> <p>今後も、生徒同士が切磋琢磨し、コミュニケーション力を高めていけるよう取り組みを進めたいと考えている。</p>
<p>学 校 協 議 会 委 員 評 価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・吉川中学校は、大阪府下でも学力の高い学校として名前があげられる。ホームページ等を通じて、吉川中学校の良い面をもっともっと発信していただきたい。 ・地域との係わりとして、中学生の一日民生委員みたいなことをぜひ体験させていただけたらと思います。 例えば下記のような活動 <ul style="list-style-type: none"> ①5月12日は『民生委員児童委員の日』です。その前後にPR活動を行っています。(スーパーなどでグッズを配布) ②11月は児童虐待防止推進月間です。その時にも啓発活動をしています。 ③朝の声かけ運動では、中学生もよく挨拶をしてくれます。更に交流が深まればと考えます。 ・小中一貫教育については、先進校であり、非常に近い距離にある箕面市立とどろみの森学園とクラブ活動だけでなく教育活動の交流も進めていくとよいのではないのでしょうか。 ・学校自己診断の公表されている評価は、肯定的評価として A. 当てはまる, B. まあ当てはまる の合計の数字とされているが、以前の吉川中学校と比べて多くの項目で肯定的評価が90%以上となってきている。意見欄で記入されているように「アンケートにわからないという項目がないのでよく知らないことにはBで回答しています。」との指摘もあるので、そのまま4段階でグラフとして公開されたほうが良いと思う。そうすることによって、積極的評価Aの動向で、成果と課題をもっと的確に把握することができるのではないのでしょうか。